

内科学（消化器内科学－Gastroenterology－）

I 教育の基本方針

大学院は科学としての医学を学ぶ場である。大学院生は優れた医療従事者としてだけでなく、科学者としての視点を持ち合わせるべく努力しなければならない。物事を客観的、批判的視点から見れる能力の育成、身体の解剖や生理学的メカニズムを理解し、疾患の病態を追究する姿勢が必要となる。

大学院生の期間に、具体的なクリニカルクエストの選定、仮設の立案、解明のための研究デザインの立案、発表のテクニック、論文作成、これら一連のプロセスを経験し修得してもらう。

II 年次毎の到達目標

| | |
|-----|---|
| 1年次 | 各疾患について幅広い知識を習得し、臨床現場において診断と治療を修得すると同時に、解決されていない問題（クリニカルクエスト）を明らかにする。 |
| 2年次 | クリニカルクエストに基づき、研究計画を立案する。研究に必要な技術や手法を習得する。 |
| 3年次 | 指導医と相談しながら計画に則って研究を実施する。 |
| 4年次 | 研究成果を学会で発表し原著論文にする。学位取得。 |

III 担当教員・研究テーマ

| | | |
|-----|-------|-------------------------------------|
| 教授 | 久松 理一 | 炎症性腸疾患の病因解明、腸管免疫学、非特異性多発性小腸潰瘍症の病態解明 |
| 教授 | 森 秀明 | 消化器病学全般、腹部超音波診断学 |
| 准教授 | 松浦 稔 | 消化器内視鏡学、炎症性腸疾患の病態解明 |

IV 研究指導補助教員

| | | | | |
|----|------|------|------|-------|
| 講師 | 川村直弘 | 土岐真朗 | | |
| 講師 | 三好 潤 | | | |
| 助教 | 林田真理 | 櫻庭彰人 | 齋藤大祐 | 大野亜希子 |
| 助教 | 三浦みき | 渡邊俊介 | | |

V 授業科目一覧

| 種別 | 科目名 | 単位 | 開講時期 | 標準履修年次 |
|--------------|--------|----|------|-----------------|
| 講義・演習 | 講義・演習 | 4 | 半期 | 1年次 |
| 実験・実習 | 実験・実習 | 8 | 通年 | 2年次又は、 1－2年次 |
| 専門分野 共通科目 | 課題研究 | 8 | 通年 | 3年次又は、 2－3年次 |
| | 研究論文演習 | 4 | 通年 | 3年次又は、 4年次 |

| | | | | | | | |
|--|---|-----------------------|-------|--------|-------|----|---|
| 開講年度 | 2021 | 開講時期 | 半期 | 標準履修年次 | 1年次 | 単位 | 4 |
| 科目名 | 講義・演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 久松理一、森秀明、松浦稔、川村直弘、土岐真朗、三好潤、林田真理、大野亜希子 | | | | | | |
| 曜日・時限等 | 春学期： 月曜日 3・4時限（13：15－14：45・15：00－16：30） 秋学期： 月曜日 3・4時限（13：15－14：45・15：00－16：30） | | | | | | |
| 教室等 | 3-7病棟カンファレンスルーム | | | | | | |
| 教育の基本方針 | 臨床において生じたクリニカルクエスチョンを解明するために、仮説をたて、それを解き明かしていく能力を修得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 消化器病学に関する幅広い知識を習得する。 2. 消化管疾患、肝疾患、胆道・膵臓疾患の病態を理解するとともにクリニカルクエスチョンを立案する。 3. 文献検索などを通じて客観的論理的思考を身につける。 | | | | | | |
| 学習内容 | 消化器臓器の解剖、生理学を理解し、各疾患の病態を学習する。またその知識をもとに何がまだ解明されていないのかについて明らかにしていく。 | | | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 講義内容 | 担当 | 春学期 | 秋学期 | | |
| | 第1回 | 臨床研究におけるクリニカルクエスチョンとは | 久松 | 04/05 | 09/27 | | |
| | 第2回 | 胃・食道逆流症（GERD）のメカニズム | 大野 | 04/12 | 10/04 | | |
| | 第3回 | ヘリコバクター感染症と消化性潰瘍 | 大野 | 04/19 | 10/11 | | |
| | 第4回 | 下部消化管の解剖と機能 | 松浦 | 04/26 | 10/18 | | |
| | 第5回 | 炎症性腸疾患の病態と最新治療 | 久松 | 05/10 | 10/25 | | |
| | 第6回 | 小腸潰瘍症のメカニズム | 久松 | 05/17 | 11/01 | | |
| | 第7回 | 腸内細菌叢と恒常性維持 | 久松・三好 | 05/24 | 11/08 | | |
| | 第8回 | 肝・胆・膵領域の解剖と生理 | 森 | 05/31 | 11/15 | | |
| | 第9回 | ウイルス性肝炎の最新治療とそのメカニズム | 川村 | 06/07 | 11/22 | | |
| | 第10回 | 肝癌の集学的治療 | 川村 | 06/14 | 11/29 | | |
| | 第11回 | 肝・胆・膵領域の画像診断 | 土岐 | 06/21 | 12/06 | | |
| | 第12回 | 肝・胆・膵領域の主要疾患の病態と治療 | 土岐 | 06/28 | 12/13 | | |
| | 第13回 | 内視鏡機器の開発と臨床応用 | 林田 | 07/05 | 12/20 | | |
| | 第14回 | 内視鏡画像の画像処理 | 大野 | 07/12 | 01/17 | | |
| | 第15回 | 内視鏡治療の現状 | 大野 | 07/19 | 01/24 | | |
| 口頭試問についてはその後に解説を行い、レポートについてはコメントを付けて添削し返却。 | | | | | | | |
| 準備学習と授業外学習方法 | 各講義前後でその内容の予習、復習を行う。授業外では、症例検討会や各種カンファレンス、学外で開催される学会や研究会に参加し、積極的に消化器病学を学習する。 CITI Japan(e-learning)の医学研究者標準コース(15単元)を受講すること。 | | | | | | |
| 学習指導書 (テキスト・参考文献等) | 日本消化器病学会監修 消化器病診療（第2版）医学書院（2014） 小俣政男他監修 専門医のための消化器病学 医学書院（2013） Harrison's Principles of Internal Medicine Sherlock & Dooley's Disease of Liver and Biliary System スタンダード腹部超音波診断 診断と治療社（1996） 日本消化器内視鏡学会監修 消化器内視鏡ハンドブック 日本メディカルセンター（2012） | | | | | | |
| 成績評価方法 | 口頭試問の実施（70%） レポート提出（30%） | | | | | | |
| 成績評価基準 | 25ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/ | | | | | | |
| 備考 | 上記の日時に参加できない者は、協議の上で具体的な時間割を決定する。なにかあれば指導医、医局長もしくは教授まで気兼ねなく相談すること 抄読会、症例検討会には必ず出席すること。学会等に積極的に参加すること。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|------|----|--------|-------------|----|---|
| 開講年度 | 2021 | 開講時期 | 通年 | 標準履修年次 | 2年次又は、1-2年次 | 単位 | 8 |
| 科目名 | 実験・実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 研究テーマにより決定する。最終的指導責任者は久松理一 | | | | | | |
| 曜日・時限等 | 原則として、毎週月-木曜日の3-5時限（13:00-18:00） ※参加が難しい場合には各ケースで協議のうえ具体的な時間割を決定する。 | | | | | | |
| 教室等 | 3-7/3-5病棟、消化器内科外来、内視鏡室、超音波検査室 | | | | | | |
| 教育の基本方針 | 臨床において生じたクリニカルクエスチョンを解明するために、仮説をたて、それを解き明かしていく能力を修得する。特に実験、実習においてはその方法論、技術を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床的知識からクリニカルクエスチョンを見出す。 2. その中から研究テーマを決める。 3. 指導者とともに研究計画を立案する。 4. 研究に必要なスキルを習得する（ベンチワーク、統計解析方法の取得、倫理申請書の書き方等）。 5. 実際に研究を遂行する。 | | | | | | |
| 学習内容 | 消化器疾患の診療に従事しながら学会参加や文献検索を通じて研究テーマに関連する疾患の理解を深める。 | | | | | | |
| 授業計画 | 第 1- 30回 消化管疾患の知識、クリニカルクエスチョンの立て方 第31- 60回 消化器診療実技の修得。研究に必要な手技の修得。 第60-120回 研究計画書の立案、研究遂行に関する講義と検討。 口頭試問についてはその後に解説を行い、レポートについてはコメントを付けて添削し返却。 | | | | | | |
| 準備学習と授業外の学習方法 | 研究テーマに沿った原著論文を読み、疑問点を抽出する。 研究手技に関する専門書を読み、必要であれば学内外に手技を学びに行く。 専門領域における学会、研究会に参加し知識を深める。 | | | | | | |
| 学習指導書 (テキスト・参考文献等) | 日本消化器病学会監修 消化器病診療（第2版）医学書院（2014） 小俣政男他監修 専門医のための消化器病学 医学書院（2013） Harrison's Principles of Internal Medicine Sherlock & Dooley's Disease of Liver and Biliary System スタンダード腹部超音波診断 診断と治療社（1996） 日本消化器内視鏡学会監修 消化器内視鏡ハンドブック 日本メディカルセンター（2012） | | | | | | |
| 成績評価方法 | 口頭試問の実施（70%） レポート提出（30%） | | | | | | |
| 成績評価基準 | 25ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/ | | | | | | |
| 備考 | 上記の日時に参加できない者は、協議の上で具体的な時間割を決定する。 質問等の受付は随時。 抄読会、症例検討会には必ず出席すること。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|------|----|--------|-------------|----|---|
| 開講年度 | 2021 | 開講時期 | 通年 | 標準履修年次 | 3年次又は、2-3年次 | 単位 | 8 |
| 科目名 | 課題研究 | | | | | | |
| 担当教員 | 研究テーマにより決定する。 | | | | | | |
| 曜日・時限等 | 履修者の研究内容によって個別に指導を行う。 ※参加が難しい場合には各ケースで協議のうえ具体的な時間割を決定する。 | | | | | | |
| 教室等 | 3-7/3-5病棟、消化器内科外来、臨床研究棟研究室・実験室 | | | | | | |
| 教育の基本方針 | 臨床において生じた疑問を、自分で仮説をたて、それを解き明かしていく事が研究の基本であり、真に臨床のための研究を遂行できる技術・能力を養成する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 研究テーマに沿った原著論文を読み、疑問点を抽出する。 2. 疑問点に関する適切な情報の収集と分析を行う。 3. 自身でたてた仮説を証明する。 | | | | | | |
| 学習内容 | 1. 研究テーマに関する文献の抄読会。 2. 関連する疾患に関する講義。 3. 研究進捗報告会（月1回）。 4. 学会・研究会や医学研究科の研究報告会で発表。 | | | | | | |
| 授業計画 | 第 1- 60回 仮説証明のための知識、研究技術の習得。適切な情報収集とその分析 第61-120回 研究成果の分析とまとめ 口頭試問についてはその後に解説を行い、レポートについてはコメントを付けて添削し返却。 | | | | | | |
| 準備学習と授業外の学習方法 | 臨床において生じた疑問を解き明かしていく事が研究の基本であり、その研究テーマに沿った原著論文を読み、疑問点を抽出する。 疑問点に関する適切な情報の収集と分析を行う。 専門領域における学会、研究会に参加し知識を深める。 | | | | | | |
| 学習指導書 (テキスト・参考文献等) | 研究テーマにより決定する。基本的には研究課題に関する関連論文（英文原著、英文総説）を読むこと。 | | | | | | |
| 成績評価方法 | 研究成果の発表（100%） | | | | | | |
| 成績評価基準 | 25ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/ | | | | | | |
| 備考 | 上記の日時に参加できない者は、協議の上で具体的な時間割を決定する。 質問等の受付は随時。学会等に積極的に参加すること。なお他教室に出入りしながら研究を進める場合はその研究室のルール、スケジュールにもできるだけ従うこと。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|---------|-----|-------------|-----------|-----|---|
| 開 講 年 度 | 2021 | 開 講 時 期 | 通 年 | 標 準 履 修 年 次 | 3年次又は、4年次 | 単 位 | 4 |
| 科 目 名 | 研究論文演習 | | | | | | |
| 担 当 教 員 | 研究テーマにより決定する。最終指導責任者は久松理一 | | | | | | |
| 曜 日 ・ 時 限 等 | 履修者の研究内容によって個別に指導を行う。 ※各ケースで協議のうえ具体的な時間割を決定する。 | | | | | | |
| 教 室 等 | 臨床医学研究棟研究室・実験室 | | | | | | |
| 教 育 の 基 本 方 針 | 臨床において生じた疑問を、自分で仮説をたて、それを解き明かし、発表、論文化する技術・能力を養成する。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 1. 研究の成果を原著論文とする。 2. 国内外の学会、ポスターセッション、症例報告会などで発表を行い、質問者からの問いに適切に答えられるようにする。 3. 博士論文を完成する。 | | | | | | |
| 学 習 内 容 | 研究結果につき消化器関連学会・研究会や医学研究科の研究報告会で発表を行い、その成果を論文化する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 第 1-10回 論文データ収集 第11-20回 データのまとめ、学会発表 第21-30回 学位論文作成 口頭試問についてはその後に解説を行い、レポートについてはコメントを付けて添削し返却。 | | | | | | |
| 準備学習と授業外の学習方法 | 1. 研究内容を定期的にまとめておくこと。 2. ディスカッションを積極的に行うこと（学会等） 3. 学会・研究会などで研究成果を発表したのちは論文へ進むこと。 | | | | | | |
| 学習指導書 (テキスト・参考文献等) | 研究テーマにより決定する。 | | | | | | |
| 成 績 評 価 方 法 | 論文の作成（100%） | | | | | | |
| 成 績 評 価 基 準 | 25ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/ | | | | | | |
| 備 考 | 学会発表や論文発表時には科学的だけでなく、研究における倫理的側面についても十分理解すること。 | | | | | | |